

公益財団法人 放射線影響研究所

NEWS健診だより

第3号

2018年9月1日
発行

“NEWS”は、「緊急作業従事者に対する疫学的研究 “Nuclear Emergency Workers Study”」の頭文字を並べた本研究の略称です。NEWSは、緊急作業に従事された方々に対する生涯にわたる健康のサポートおよび放射線の人体への長期的影響を明らかにすることを目的としています。



Photo: 都会のオアシス 市ヶ谷フィッシュセンター

JR市ヶ谷駅ホームから見える都心にある釣堀。「釣りバカ日誌」の撮影場所にも使われた。釣堀は大きな「鯉池」と子供も楽しめる「金魚池」がある。観賞魚ショップもあり、世界中から集められた熱帯魚の観賞も可能。のどかな空間で糸を垂らし水面を眺めているだけでも癒される。

■写真協力: 東京都予防医学協会

ご挨拶

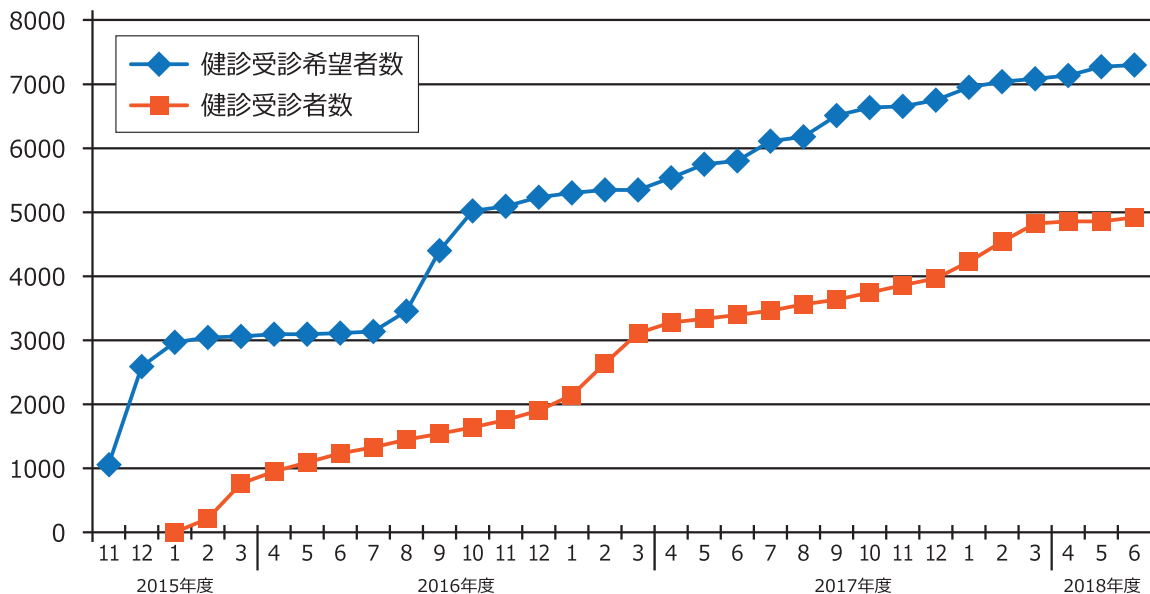
NEWS健診だより第3号をお届けします。本研究開始後5年目に入り、当初計画によれば基盤部分が完成する時期になりました。しかし、昨年の本誌でもご報告いたしましたとおり、研究へ参加して下さる人数がまだ十分ではありません。これまでに手紙による呼びかけを繰り返してまいりましたが、明確に研究参加を断られた方、宛先不明で返送された方より、お返事をいただけない方の数の方が多いです。ご多忙な方、住所地以外へ出張中の方々も少なくないとは思いますが、健康診断の機会が他にも十分あることで、研究参加を躊躇される方もあるのではないかと想像します。この研究の目的は、東電福島第一原発事故の緊急作業に従事されたことによる健康影響を長期にわたって調査するものですから、お若い方であれば、必ずしも現時点で健康診断を受けていただく必要はないかもしれません。ただ、現時点で、この研究にご参加いただくことに同意をしていただければ統計調査が可能になり、必要最低限の健康影響評価が可能となります。健康診断は、退職後に健康診断の機会が少なくなった時からでもご参加いただけます。疫学調査はできるだけ多くの方に参加していただくことが最も重要です。この機会に研究参加をご再考いただけないでしょうか。よろしくお願い申し上げます。



研究代表者 大久保利晃

NEWS健診進捗状況

2015年より、緊急作業従事者の皆様へ研究への参加をお願いして参りました。2018年6月末日時点で研究参加者は7,307名、健診受診者は4,926名となりました。



今、健診をお待ちいただいている方、これからお申込みいただく方の1回目の健診は、継続して実施して参ります。また、2015年度に健診を受診いただいた方では、前回の健診から3年が経過する時期となりました。現在、2回目の健診の準備を進めております。2019年度になりましたら、事務局より改めてご連絡いたします。

ウェブサイトのお知らせ

2017年9月に本研究のウェブサイトを開発しました。研究の概要をお知らせするだけでなく、緊急作業従事者の皆様が参加登録できる機能を備えています。

ウェブサイトでは以下のような内容を見ることができますので、ぜひお立ち寄りください。

※今後、健診申込みが出来るよう準備を進めています。



スマートフォンをお使いの方は
こちらから!

<http://news.rerf.or.jp/>



研究組織

ベースライン調査

調査年度	調査対象者数 (人)	調査対象者数 (世帯)	調査対象者数 (世帯)	調査対象者数 (世帯)	調査対象者数 (世帯)
2013年度	776 (776)	51,468 (124,791)	179,011 (71,269)	214,280 (86,624)	394 (158)
2014年度	328 (328)	51,468 (124,791)	179,011 (71,269)	214,280 (86,624)	542 (216)
2015年度	328 (328)	51,468 (124,791)	179,011 (71,269)	214,280 (86,624)	542 (216)
2016年度	328 (328)	51,468 (124,791)	179,011 (71,269)	214,280 (86,624)	542 (216)
2017年度	328 (328)	51,468 (124,791)	179,011 (71,269)	214,280 (86,624)	542 (216)

ベースライン調査の集計

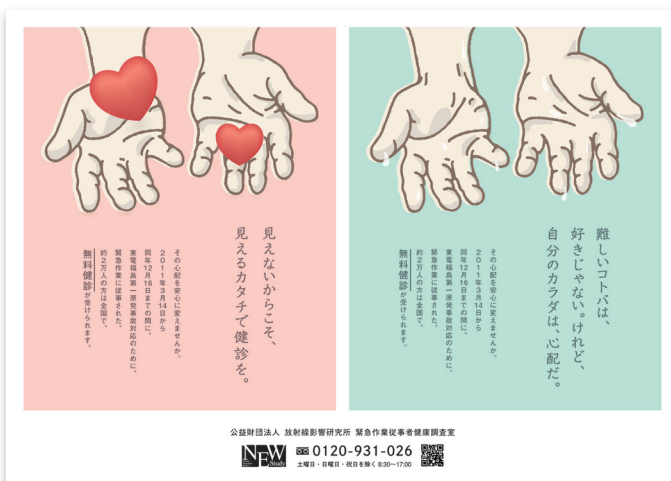


調査研究への参加方法のご案内



NEWS健診だよりバックナンバー

NEWSのポスターを作成しました!



デザインコンセプト

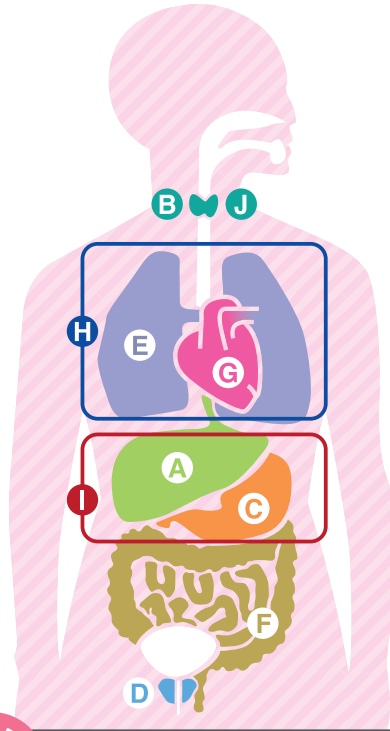
「てのひら」は、生活や職業により形を変えていくため、その人の生き方そのものがにじみ出るとも言われています。厳しい環境の中、事故収束のために力を尽くしてくださった皆様を「どっしりとした働く手」で表現しました。放射線は目に見えないからこそ、その影響を心配される方もいらっしゃるでしょう。汗のしずく(右)は本音としては自分の身体への影響が気になる緊張感、ハート(左)は健診を受けての安心感をイメージしています。

同デザインのチラシとともに、2018年4月より、全国の健診協力機関を中心に、順次掲示・設置中です。お見かけの際は、是非お手におとりください。

NEWS健診の検査項目

血液検査

- 白血球
- 赤血球
- 血小板
- 肝機能
- 腎機能
- 尿酸
- 電解質 (Na・K・Cl・Ca・P)
- 血糖
- HbA1c
- 中性脂肪
- 総コレステロール
- LDL (悪玉) コレステロール
- LHL (善玉) コレステロール
- A B型・C型肝炎ウイルス検査
- B 甲状腺ホルモン検査
甲状腺抗体検査
- C ピロリ菌検査
- D 前立腺特異抗原(PSA)検査



尿検査

- 潜血
- 蛋白
- 糖
- 亜硝酸塩

E 喀痰検査

- 喀痰細胞診

F 便潜血検査

G 心電図検査

H 胸部レントゲン検査

I 腹部超音波検査

J 甲状腺超音波検査

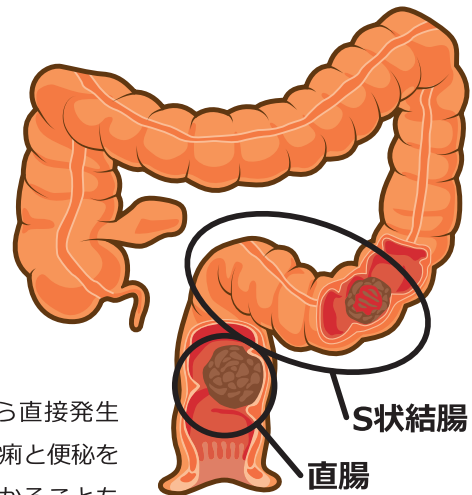
ナース K の知っ得 Vol.2

大腸がんと便潜血検査

生涯で何%の方が大腸がんにかかるかご存知ですか。男性は9.3% (およそ10人に1人)、女性は7.4% (およそ13人に1人)が大腸がんを経験するといわれています¹⁾。大腸がんにかかる割合は40代から増え始め、50代から急増し、高齢になるほど高まります。日本人の大腸がんの好発部位は、S状結腸と直腸です。

大腸がんには、良性ポリープががん化するものと、正常粘膜から直接発生するものの2種類があります。早期では自覚症状はほぼなく、血便・下痢と便秘を繰り返す・便が細い・便が残る感じ等の症状がきっかけでがんが見つかることもあります。

市町村等自治体の大腸がん検診では、40歳以上を対象に「便潜血検査」が実施されています。大腸がんでは、便が通過する際にがんの表面が擦れて崩れること等によって、自覚症状がでるよりも早い時期に、ごく少量の出血をきたすことがあります。出血は他の原因によるものもありますし、また、大腸がんがあっても毎回出血するとは限らず、検査が陰性でも注意が必要です。便に含まれる血液を検出する便潜血検査は、大腸がんを発見するための精密検査が必要な方を選び出すための検査ですので、結果が陽性の場合は精密検査(大腸内視鏡検査)を受けましょう。陰性でも、1年に1回は検査を継続して受けましょう。もし大腸がんになる可能性のあるポリープが見つければ、治療や経過観察などが必要です。



1)がんの統計 '17, 国立がん研究センター

健診までの流れ

参加意向確認および健診のお申込み

郵送でのお申し込み

健診参加意向調査回答用紙に必要事項を記入し、ご返送ください。お手元がない場合は事務局へご連絡ください。

フリーダイヤル 0120-931-026

ウェブサイトからのお申し込み

NEWSウェブサイト: [参加登録ページ](#)より健診をお申し込みいただけるようになります。

NEWSウェブサイト

<http://news.rerf.or.jp/>

現在、
準備中!

健診予約

ご自身で選択された健診機関、またはNEWS健診予約センターより、電話または手紙にて受診予約調整の連絡が入ります。 ※健診機関によっては予約調整の連絡をお待たせする場合がありますが、必ずご連絡差し上げます。

健診受診

- 1 健診の所要時間は半日程度です。
- 2 健診機関から届く、受診案内の注意事項をよくお読みください。
- 3 規定により算出した交通費等を、健診当日にお支払いします。

健診は
無料です

結果報告

1 カ月以内を目途に結果を郵送いたします。

※健診の結果、精密検査が必要な場合は、ご自身の負担となります。

- 現在参加を希望されない場合でも、将来いつでもご参加いただけます。
- 研究への参加は自由であり、参加されなくても不利益を受けることは一切ありません。
- 一度研究に参加された場合でも、途中で参加を止めたい場合は、不利益を被ることなくいつでも中止することができます。
- 健診は3年～4年に1回の実施となります。1回目を終えられた方は、次回の健診時期が近づきましたらご案内をお送りいたします。

健診協力機関MAP

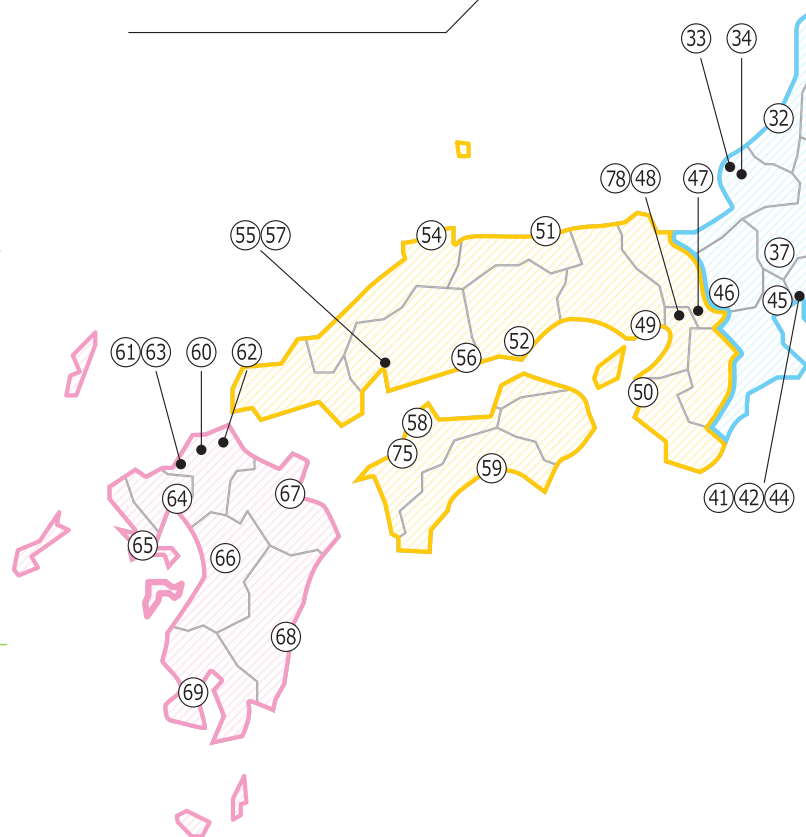
北海道・東北

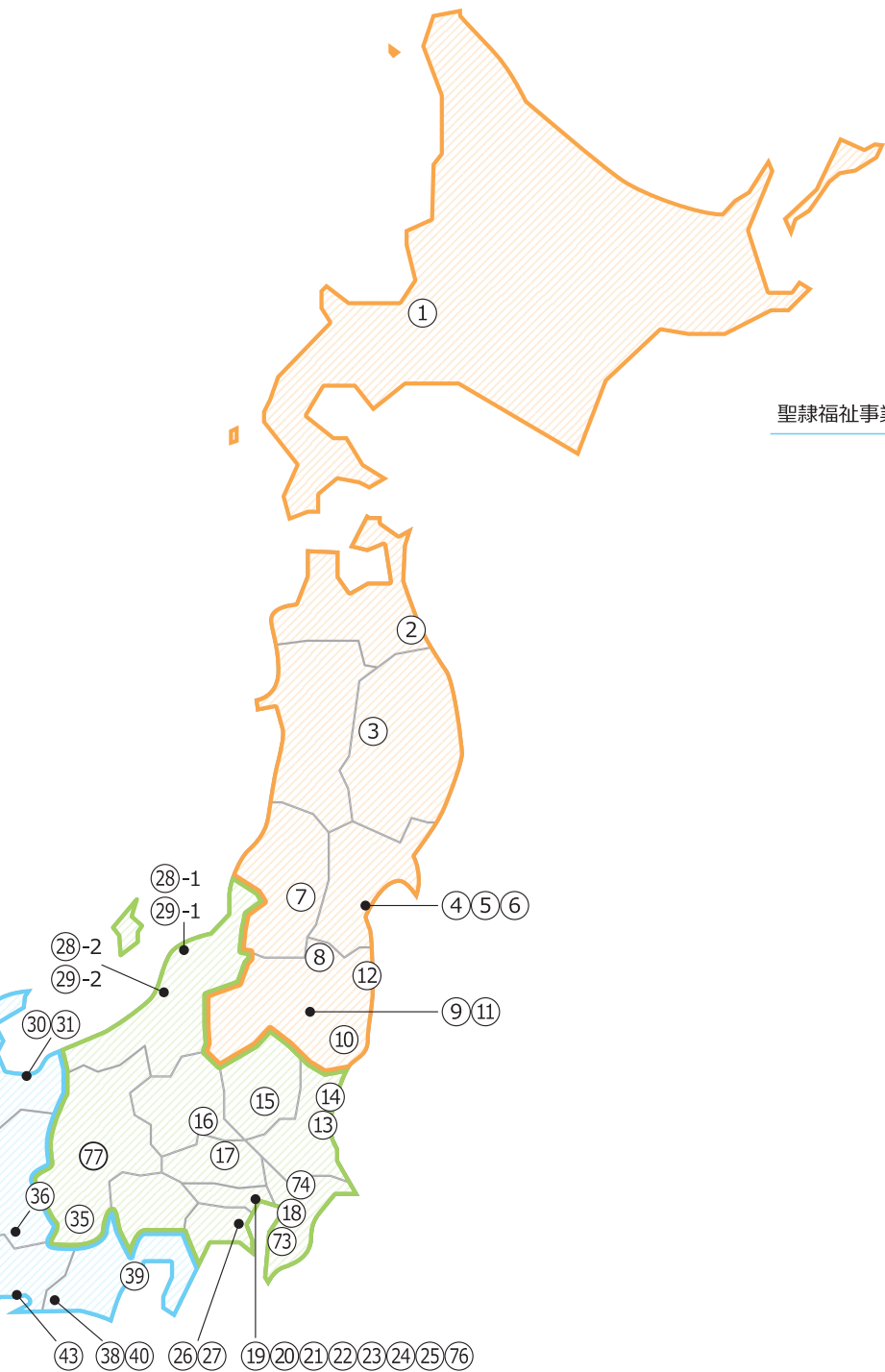
- ① 北海道労働保健管理協会
- ② 八戸市総合健診センター
- ③ 岩手県予防医学協会
- ④ 杜の都産業保健会 一番町健診クリニック
- ⑤ 宮城県成人病予防協会附属仙台循環器病センター 総合健診センター
- ⑥ 宮城県成人病予防協会 中央診療所
- ⑦ 日本健康管理協会 山形健康管理センター
- ⑧ 福島県労働保健センター
- ⑨ 星総合病院
- ⑩ 福島県労働保健センター いわき好間コミュニティ健診プラザ
- ⑪ 三春町立三春病院
- ⑫ 南相馬市立総合病院

関東・甲信越

- ⑬ 茨城県総合健診協会
- ⑭ 株式会社日立製作所 日立健康管理センタ
- ⑮ 栃木県保健衛生事業団
- ⑯ 日本健康管理協会 伊勢崎健診プラザ
- ⑰ 埼玉県健康づくり事業団
- ⑱ ちば県民保健予防財団
- ㉑ 君津健康センター
- ㉒ 聖隷佐倉市民病院健診センター
- ⑲ 健康医学協会 東都クリニック
- ㉓ 東京都予防医学協会
- ㉔ 日本予防医学協会附属診療所 ウェルビーイング毛利
- ㉕ 同友会 春日クリニック
- ㉖ こころとからだの元気プラザ
- ㉗ 綜友会 高戸橋クリニック
- ㉘ 綜友会 第二臨海クリニック
- ㉙ 労働衛生協会 高井戸東健診クリニック
- ㉚ 神奈川県予防医学協会
- ㉛ 神奈川県結核予防会 中央健康相談所
- ㉜-1 新潟県労働衛生医学協会 プラカ健康増進センター
- ㉜-2 新潟県労働衛生医学協会 アクアール長岡健康増進センター
- ㉜-1 健康医学予防協会 新潟健診プラザ
- ㉜-2 健康医学予防協会 長岡健康管理センター
- ㉝ 中部公衆医学研究所
- ㉞ 労働衛生協会 長野県支部

お近くの
機関で健診が
受けられます!
※機関数拡大中



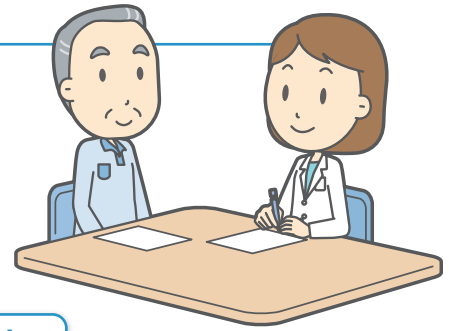


- 北陸予防医学協会 高岡総合健診センター ③⑩
- 北陸予防医学協会 健康管理センター ③⑪
- 石川県予防医学協会 ③⑫
- 福井県労働衛生センター ③⑬
- 福井県予防医学協会 ③⑭
- ききょうの丘健診プラザ ③⑮
- ぎふ総合健診センター ③⑯
- 聖隷福祉事業団 聖隷健康診断センター ③⑰
- 聖隷福祉事業団 聖隷健康サポートセンター Shizuoka ③⑱
- 聖隷福祉事業団 聖隷予防検診センター ③⑲
- 愛知健康増進財団 ④⑰
- オリエンタル労働衛生協会 ④⑱
- 半田市医師会 健康管理センター ④⑳
- 日本予防医学協会 東海事業部 ④㉑
- 三重県産業衛生協会 ④㉒
- 滋賀保健研究センター ④㉓
- 京都工場保健会 ④㉔
- 愛仁会 愛仁会総合健康センター ④㉕
- 日本予防医学協会 西日本事業部 ④㉖
- 兵庫県予防医学協会 ④㉗
- NSメディカル・ヘルスケアサービス ④㉘
- 中国労働衛生協会 鳥取検診所 ④㉙
- 淳風会 淳風会健康管理センター ④㉚
- 島根県環境保健公社 ④㉛
- 広島県集団検診協会 ④㉜
- 中国労働衛生協会 福山本部 ④㉝
- 放射線影響研究所 広島研究所 ④㉞
- 愛媛県総合保健協会 ④㉟
- 菅井内科 ④㊱
- 高知県総合保健協会 ④㊲
- 西日本産業衛生会 北九州産業衛生診療所 ④㊳
- 福岡労働衛生研究所 ④㊴
- 九州健康総合センター ④㊵
- 医療情報健康財団 ④㊶
- 佐賀県産業医学協会 ④㊷
- 放射線影響研究所 長崎研究所 ④㊸
- 熊本県総合保健センター ④㊹
- 大分総合健診センター ④㊺
- 宮崎県健康づくり協会 ④㊻
- 鹿児島県労働基準協会 ヘルスサポートセンター鹿児島 ④㊼
- 那覇市医師会 生活習慣病検診センター ④㊽

東海・北陸

近畿・中国・四国

九州・沖縄



Q&A 健診受診に関してよくある質問

Q: この研究に協力して健診を受けるメリットは何ですか？

A: 研究にご協力いただくことで、継続して健康診断を定期的に受けていただくことができます。その健診結果は、あなたの生涯にわたって事務局に保存されますので、長期間にわたる健康度のわずかな変化がわかり、あなたの健康管理に役立てることができます。保健指導も行っています。

Q: 健康診断を定期的に受けるということですが、毎年ですか？

A: この研究の健康診断は毎年ではなく、3年～4年に1回実施となっております。

Q: 2回目の健診はいつ受診できますか？

A: 2016年1月～3月に1回目の健診を受診された方を対象に、2019年度より2回目の健診を実施する予定です。該当の方には2019年度になりましたら受診のご案内をお送りする予定です。

Q: 参加したいけれど、健診費用や健診機関までの交通費は自己負担になるのですか？

A: 健診費用は無料です。交通費に関しては、規定に基づき算出した最寄りの健診機関までの往復交通費をお支払いします。ただし、健診の結果、要精密検査となった場合は、ご自身の健康保険でのご負担となります。

Q: 緊急作業従事者向けの健康相談や労災に関して相談できる窓口はありますか？

A: 厚生労働省では、緊急作業従事者向けの健康相談窓口と、放射線被ばくに係る労災補償や労災保険給付などの相談窓口を設けています。下記にお問い合わせください。

緊急作業従事者向けの健康相談

【TEL】0120-808-609（※フリーダイヤル/全衛連本部）

相談時間：9:00～17:00（平日）

労災保険相談ダイヤル

【TEL】0570-006031（※ご利用には通話料がかかります。）

相談時間：9:00～17:00（平日）

ご不明な点がございましたら、お気軽に下記事務局へお問い合わせください。

「東電福島第一原発緊急作業従事者に対する疫学的研究」事務局（土曜、日曜、祝日を除く午前8時半から午後5時）



〒732-0815 広島市南区比治山公園5-2

公益財団法人 放射線影響研究所 臨床研究部 緊急作業従事者健康調査室

フリーダイヤル ☎ 0120-931-026 E-mail newstudy-jimu@rerf.or.jp

放影研代表 TEL 082-261-3131 ウェブサイト <http://news.rerf.or.jp/>

